

令和5年度 道徳教育地域支援事業における事業内容

学校名[南陽市立赤湯小学校]

【研究の要約】

人口減少等から予測される未来社会に生きる児童にとって、「互いの違いを認め合い、自他を尊重できる人権意識」は特に重要であり、道徳科を要とした学校教育活動全体を通じ、それぞれの特質に応じた適切な指導や豊かな体験活動によって育まれるものである。

また、日々の教職員の関わりは、児童の人格形成に影響を与える。「こども基本法」に規定された権利を教職員自身が意識し、尊重し、児童との対話を大切にした指導を心がける必要がある。

学校教育活動全体の道徳教育の質的充実と教職員としての基本姿勢の確立を図ってきた。

1. 事業の内容(具体的実践事例)

(1) 南陽市教育指導員の活用

南陽市教育指導員は、市内小中学校に勤務し、各教科等の指導において優れた指導力と豊かな専門性を備えた教職員を「教育指導員」として南陽市教育委員会が委嘱し、主体的な研修や他校研究への参加・助言等を通して、市内教職員の指導力向上・人材育成を図る制度である。

今年度は道徳の指導で優れた実績を有する教育指導員より、①道徳授業に関する講話、②教材分析と指導案の共同作成、③実施後の研究協議までの一連の指導・助言をしてもらいことで、若手教員の指導力向上を図った。

(2) 地域組織の教育力の活用(豊かな体験活動)

①赤湯生き方まっすぐネットワーク協議会「まっすぐミーティング」

「赤湯のほこり 大きく広げる その笑顔 ～自分と家族や仲間・地域・環境とのつながりを考えよう～」をテーマに、赤湯小学校・中川小学校・赤湯中学校の児童生徒、保護者、教職員、そして、地区長会や各種団体をはじめとした地域の方々、総勢85名による意見交換会を行った。年齢に関係なく、参加者同士の結び付きが強まり、地域ぐるみでよりよいまちをつくろうという機運が高まった。

②烏帽子山千本桜保存会「講話と施肥作業」

事前学習として、保存会の方から烏帽子山公園と千本桜についての講話を聞き、後日、保存会の会員と共に現地での施肥作業を行った。こうした体験を行った児童は、その後も「私(たち)が肥料をまいた桜の木」という意識をもち、卒業後も関心を寄せている。

③赤湯温泉ふるさと祭り実行委員会「オープニング鼓笛パレード」と烏帽子山八幡宮敬神会「大鳥居しめ縄掛け替え神事での鼓笛パレード」

赤湯地区をあげての大きな伝統行事である「赤湯温泉ふるさと祭り」と「烏帽子山八幡宮大鳥居のしめ縄掛け替え神事」での鼓笛パレードも伝統として続いている。地域に住む大人の課題は、同じ地域に住む児童にとっても課題である。その課題解決に向けた一翼を担う活動への価値付けをしっかりと行い、郷土愛を育む機会として今後も継続していきたい。

(3) 「師の基本姿勢“指示”から“質問へ” 児童と共に考える」

「児童による『選択』と『自己決定』の保障」

日常生活で起こる子ども同士のトラブルについても、「何をしているんだ」「こうしないとだめだろう」という教師が感情的になり指示・指導するのではなく、どんなトラブルであっても、その行為に至る子どもの気持ちを最優先に理解する姿勢が重要である。その上で、「本当はどうしたかったの」「それなら、どうすればよかったんだろう」と問いかけ、本人に考えさせる質問・支援に努めてきた。

さらに、地域の方による「見守りボランティア」の協力により、友達とのトラブル等が原因で、感情を抑えられず、教室に戻れなかったり、泣いて動かなくなったりする子どもに対して、クールダウンするまでそっと傍に寄り添ってもらったり、子どもの言い分を丁寧に受け止めてもらったりすることで、気持ちを整理し、落ち着いたところで教室に入ることができていた。

2. 研究成果(○)と課題(●)

(1) 特別の教科 道徳の指導について

○ ネームシールや心メーターを使い、心情の変化を可視化することで学びを深めることができた。導入や終末を効率よく進めるためにICTの活用も効果的である。

また、事前アンケートを行ったり、児童の実体験と近い題材を選んだりすることで、自分事の課題に近付けることができる。

○ 小中学校の授業づくりで共通に大切にしたいことは、以下の通りである。

- ・資料やアンケートの提示など、課題意識を醸成する導入を設定する。
- ・価値に迫る主発問や「自分事」にして考えることができる発問を吟味する。
- ・ねらいに合わせた学習形態をとるなど、考えを深めるための話し合いの手立てについて考える。
- ・学年に応じた対話スキルを身に付けられるような手立て（質問、問い返し、共感、反応、比較、批判的視点で聞くなど）について考える。
- ・他教科、総合的な学習の時間、特別活動や学校行事と関連させ、道徳的価値について実践を通して深められるようにする。
- ・学級の実態や価値のつながりを考えて価値の取り扱い順序を工夫する。

● 深い学びのためには、本音で話せる環境が大切になる。途切れない対話に近付けるために対話スキルを高める訓練が有効である。

(2) 道徳教育に関する研究会・研修会への計画的な職員派遣と教育指導員の活用について

○ 本校では毎年2名の新規採用の初任教諭が配置されることから、職員構成も道徳授業を担当する担任の過半数は10年未満の教諭である。道徳教育及び特別活動、生活科、総合的な学習の時間等へ、本事業費及び本校配分旅費を活用し計画的に職員を派遣した。参加した教職員の報告からは、新鮮な発見・気づきが自らの道徳授業に生かそうという意欲が伺えた。

○ 各教科等の指導において優れた指導力と豊かな専門性を備えた「教育指導員」を招聘し、特に若手教職員を対象に授業づくりから事後研究会まで伴走してもらうことで、若手職員の気づきや指導上の工夫等の発想が豊かになることが明らかになった。研修意欲を引き出し、教育指導員の協力を得ながら、OJTの充実による指導力向上が期待される。

(3) 児童の思いを引き出し、言葉で紡ぎ、互いの違いを認め尊重し合う指導について

- 「指示・指導に従う“素直さ・従順さ”と個々の差・違いを小さくし“同質性”を求め
る指導から脱却し、異なる価値観・個人差・個性を前提に、同じ一人の人間として『対話
を通じた合意形成・意思決定』」を教職員の指導の基本とした。
- 「互いの違いを認め合う学校文化を醸成する」ために、集団機能を生かした“個”が育
つ学級経営を重点の一つとした。教職員の意識として“はじめに集団ありき”ではなく“
はじめに個ありき”に転換し、“学級は、多様な個が集まった集団”でありみんなが“ふ
つうの子”と理解するようになった。そこでは、“治そうとするな、分ろうとせよ”を合言
葉として実践を重ねたことで、学級が児童の居場所となった。
- 「他者の失敗や短所に寛容で共感的な学級の雰囲気醸成する」ために、教職員が“ど
うして？（問題追究）”から“どうしたら？（解決志向）”へと思考を変える努力をした。
具体的な教師の基本姿勢は“指示”から“質問”へ変えること、そして児童と共に考える
ようにしたことで、共感的な学級の雰囲気醸成に近付いた。
- 「あらゆる教育活動（学習活動）を通して、自力解決の力を育成する」ために、児童自
身の“選択”と“自己決定”の場・機会を可能な限り保障してきた。そして、教職員は“
不要不急の指示・指導・助言”を控え、児童同士、児童と教職員の対話を通して児童自ら
の力で課題解決ができるよう支援をしてきたことで、学級内の絆づくりが促進した。

今年度、子供達にたとえばトラブル等が生じた時、「どうしたかったのか」という問い
をしていきます、というお話を聞きました。1人の親として、こんなに相手の思いを尊重
でき、問いかけられた相手が内省するきっかけとなる問いかけがあったのか、と心が救わ
れました。解決は既にしてはいますが、以前、我が子が理不尽な嫌がらせを受け、それが続
いたことがありました。家族で悩み、苦しみました。前向きだった我が子は、自分から輪
に入ることを避けるようになりました。あの時ひと言相手のお子さんに、「あなたはど
うしたかったのか」と問うことができたなら、どんなに家族で気持ちが楽になったか、と思
いました。幼保、小学校、中学校、そして家庭と連携し、今年度のように、問題解決法を一
人ひとり考える機会を少し増やして頂けたらと願います。 (保護者アンケートより)

(4) 学校教育活動全体の道徳教育の質的充実

- 「道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己
の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生
きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする」と示されているように、児童の主
体的な判断と行動、内省、体験を通じた協働・共生の実感が重要である。そのためには、
学校の教育活動全体を通じた児童主体の活動を増やすとともに、要となる特別の教科・道
徳の質的充実を図ることが必要である。さらに、登校時から児童に関わる教職員の人権尊
重の精神に基づく対話による援助・支援を全教職員が一致して貫くことが重要である。

<参考資料>

令和5年度全国学力・学習状況調査 児童質問紙より

項目	※ 数字は「当てはまる」と回答した児童の割合	4月	2月	比較
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。		45.9%	61.9%	+18.0
人が困っているときは、進んで助けていますか。		32.7%	40.5%	+ 7.8
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。		72.4%	76.2%	+ 3.8
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。		65.3%	67.9%	+ 2.6
今住んでいる地域の行事に参加していますか。		31.6%	39.3%	+ 7.7
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。		32.7%	38.1%	+ 5.4

保護者アンケートより

項目	平均
お子さんには、相手のことを考え、やさしく接する様子が見られる。	2.27
お子さんには、自分と異なる考えや意見も大切にすることが見られる。	2.09
お子さんには、興味や関心のあることに進んで取り組む様子が見られる。	2.47
お子さんには、興味や関心のあることをじっくり深く追究しようとする様子が見られる。	2.06
お子さんは、生活リズムや生活環境を整えて健康な生活を送っている。	2.12
お子さんは、進んで外遊びや運動を行おうとしている。	1.75
お子さんには、いろいろなことに挑戦しようとする様子が見られる。	1.80

※ 数字は「当てはまる」3点、「どちらかと言えば当てはまる」2点、「どちらかと言えば当てはまらない」1点、「当てはまらない」0点として回答された平均

児童アンケートより

- ①相手のことを考えて、あかるく元気にあいさつや返事をする事ができた。
- ②自分や友だちのよさを見つけ、お互いのことを大切にしながらかかわることができた。
- ③みんなが安心して安全な生活ができるように、学校のきまりを考えて行動したり、よりよい学校（学年・学級）のために、自分の力を出したりすることができた。

平均	こころ								
	①相手意識			②自他の尊重			③集団意識		
	6月	11月	増減	6月	11月	増減	6月	11月	増減
1年	2.36	2.33	-0.04	2.49	2.50	0.01	2.36	2.36	0.00
2年	2.34	2.60	0.26	2.63	2.68	0.05	2.56	2.70	0.13
3年	2.05	2.34	0.28	2.39	2.55	0.17	2.28	2.40	0.12
4年	2.26	2.45	0.19	2.40	2.58	0.18	2.39	2.39	0.01
5年	2.10	2.21	0.11	2.33	2.47	0.14	2.18	2.27	0.09
6年	2.33	2.47	0.14	2.51	2.62	0.11	2.36	2.49	0.13
合計	2.24	2.39	0.15	2.46	2.56	0.10	2.35	2.43	0.08

※ 数字は「できた」3点、「どちらかと言えばできた」2点、「どちらかと言えばできなかった」1点、「できなかった」0点として回答された平均